

地方経済情報 Weekly No.310

進化する道の駅～地方創生・観光の拠点に～

1. 道の駅を取り巻く環境

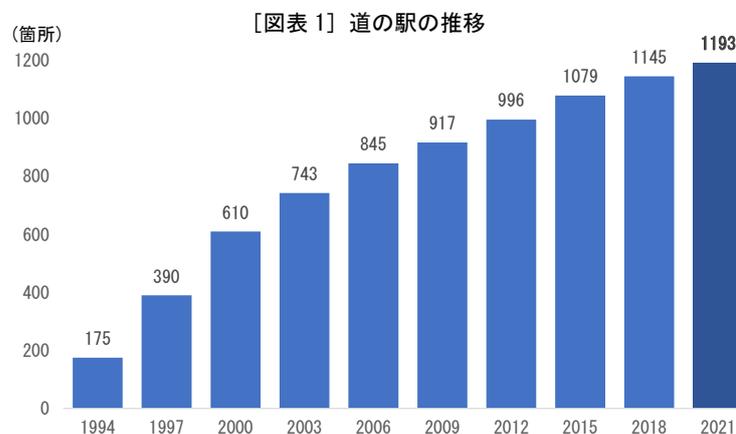
道の駅は1993年に道路利用者への「休憩」「情報発信」「地域連携」機能の提供を目的として設置されました。今では全国に1,193箇所の道の駅があり(図表1)、従来の3つの役割以外にも「観光」や「防災」の拠点としても活用されています。

2. 福島県浪江町の「道の駅なみえ」の事例

東日本大震災で住民の大半が避難を余儀なくされた福島県浪江町。2020年には、避難生活を終えて帰宅した住民の生活支援の拠点となることを目的として「道の駅なみえ」がオープンしました。施設には(株)良品計画が運営する「無印良品」が出店しており、従来の道の駅では取扱いがなかった商品を提供することで、住民の利便性向上に貢献しています(図表2)。

3. 道の駅を拠点としたにぎわい創出

「道の駅なみえ」のように民間企業と連携して地域の活性化を目指していく動きは県内にもあります。2021年10月、米大手ホテルのマリオット・インターナショナルが「道の駅阿蘇」の隣接地にホテルを建設することを発表しました。ホテルは宿泊に特化しており、食事や土産物の購入は「道の駅」を利用してもらうことで、人々との交流や地域経済の活性化が期待されています。



資料：国土交通省「道の駅案内」を基に弊所作成

[図表2] 無印良品が出店する「道の駅なみえ」の店内の様子



資料：株式会社くまもとDMC撮影

担当：研究員 大久保